

## 令和4年度 「教育経営研修」開講式 教育長挨拶

令和4年5月27日（金）  
教育研究所2階 第2研修室

皆さん、おはようございます。教育長の細田 眞由美でございます。  
令和4年度教育経営研修の開講に当たり、挨拶を申し上げます。

今年度、30名の先生方が教育経営研修を受講されることを大変うれしく思います。本研修は、今年度大きくリニューアルし、研修の目的を将来の管理職の育成とし、対象の職種を拡大するとともに、年齢や経験等、応募条件も見直しました。そして、その目的を達成するために、全8回の研修では、内閣府審議官をはじめ、大学教授、民間企業役員、教育委員等、幅広い知見を有した講師をお招きし、リーダーに求められる資質を確実に身に付けることができる講義や演習を計画しております。

また、教育経営研修は、御存じの通り、各学校長から推薦を受けた方々の研修です。未来の管理職に値する人間性や教養、素養を備えていると校長先生に認められ、推薦を受け、本研修に参加しております。さらに、本研修を修了された方は、管理職として素養が認められ、管理職選考試験の1次試験の一部が免除されます。ぜひ、そのことを強く自覚し、本研修に臨んでください。

さて、国においては、人の幸せ、well-being を実現するため、文部科学省のみならず様々な省庁が連携して教育の未来を支える様々な施策を講じているところです。そうした中、新たに発足したデジタル庁に、文部科学省・経済産業省・総務省が加わり、教育DX（デジタル・トランスフォーメーション）の検討が進められております。そして、4月には内閣府の「総合科学技術・イノベーション会議」通称CSTIの教育・人材育成ワーキンググループにより、「Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」が発表され、教育の果たす役割の大きさを再認識するものとなりました。

このCSTIの科学技術・イノベーション推進事務局の審議官を務め、本

研修でも御講義いただきます合田哲雄（ごうだ てつお）氏は、「これからの教育は、すべての子どもに共通している『知りたい欲求』を刺激し、その子の学びの扉が開くように働きかけることが必要である。情報端末を生かした個別最適な学びを充実して子どもたちが直面する様々な困難さを取り除くとともに、生身の教師が子どもたちの学ぼうとする心に火を灯し、『学び合い』や『教え合い』でクラス全体の知識の理解の質を高めたり、討論や対話、協働を引き出したりすることが求められる。」と指摘しています。

合田氏の言葉を借りるならば、「子どもたちの学ぼうとする心に火を灯す」ために、変化の中においても進むべき指針を示すことのできるリーダーの存在が求められています。

ここにいる30名の先生方には、この教育経営研修を通して、これからのさいたま市教育の推進者として、新たな学びを実現するリーダーとして、素養を磨き、必要な見識を深めてほしいと切に願っています。

結びになりますが、参加について御配慮くださった校長先生をはじめとする多くの方々への感謝の気持ちを忘れずに、健康に留意し、実りある研修にしてください。